●使い方の動画は下記でご覧いただけます。
取扱説明書をお読みいただいてから、動画をご覧ください。

〈新生児タテ対面抱っこ〉 首すわり前

〈タテ対面抱っこ〉 首すわり以降

〈前向き抱っこ〉 ひとり座り以降

〈おんぶ〉 首すわり以降

〈使い方のポイント〉

・本書に使用しているイラストは、操作方法や仕組みなどを分かりやすくするため、実物とは多少異なる場合があります。
・本書の内容について、誤りや記載もれなどお気づきの点がありましたら、弊社お客様サポートセンターまでご連絡ください。
・製品の品質向上のため、予告なしに一部仕様変更する場合もありますので、あしからずご了承ください。

ニューウェルブランズ・ジャパン合同会社

〒108-0023 東京都港区芝浦4-9-25 芝浦スクエアビル
ベビー事業部 お客様サポートセンター　TEL 0120-415-814　携帯電話からご利用の場合（通話料お客様負担）TEL 0570-004-155
受付時間：AM10:00～PM5:00（土、日、祝日、弊社所定休日を除く）

25-03　NWL0001686750B

Aprica

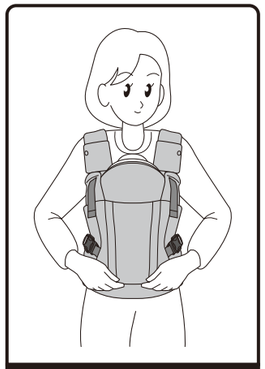
抱っこひも

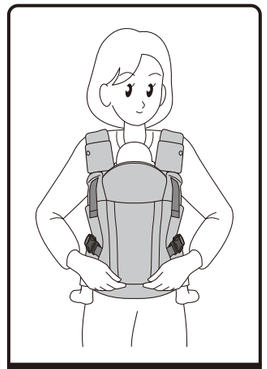
ラクリス

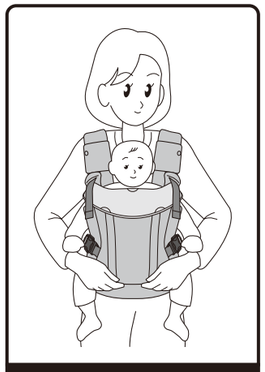
取扱説明書／保証書

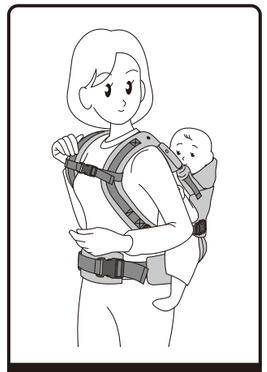
このたびは、アップリカ製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。
この製品は生後14日以降※かつ体重3.2kgから36カ月（体重15kg）までのお子さま1人用抱っこひもです。

※出生時に、体重2.5kg以上かつ在胎週数37週以上を満たしているお子さまを対象としています。
出生時の条件を満たさないお子さまへのご使用については医師にご相談ください。


新生児タテ対面抱っこ


タテ対面抱っこ


前向き抱っこ


おんぶ

・腰ベルトサイズ：60cm～138cm。
（体型によって冬場など厚着の時には使用できない場合があります。）

ご使用の前に、取扱説明書（本書）をよくお読みのうえ正しくお使いください。
お読みになった後は、本書はいつも取り出せる場所に必ず保管してください。
本書に記載されている以外の方法で使用しないでください。製品の機能が十分発揮できないだけでなく大変危険です。

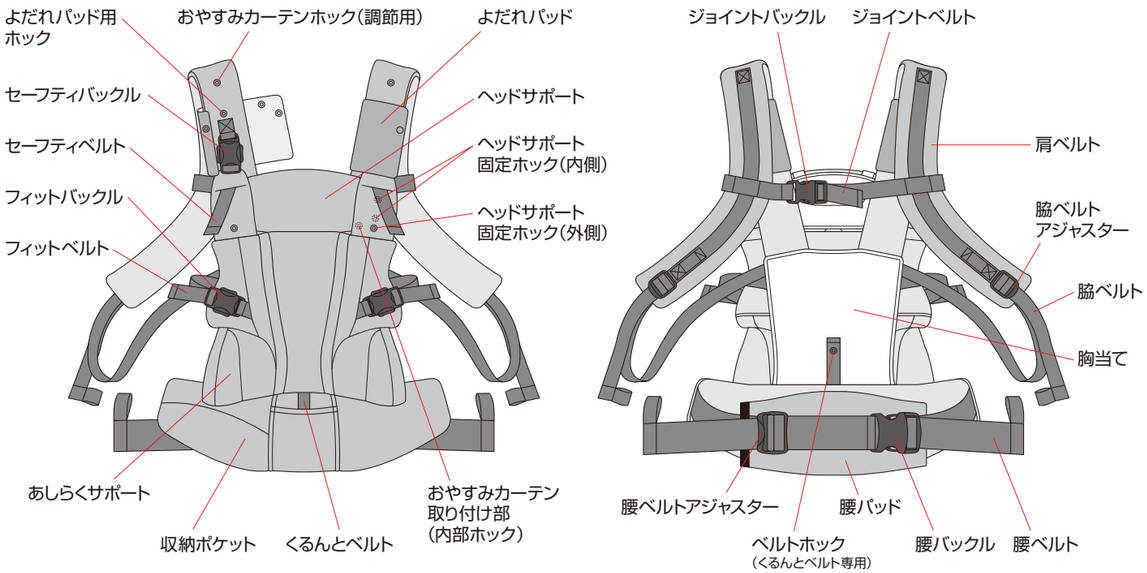
もくじ

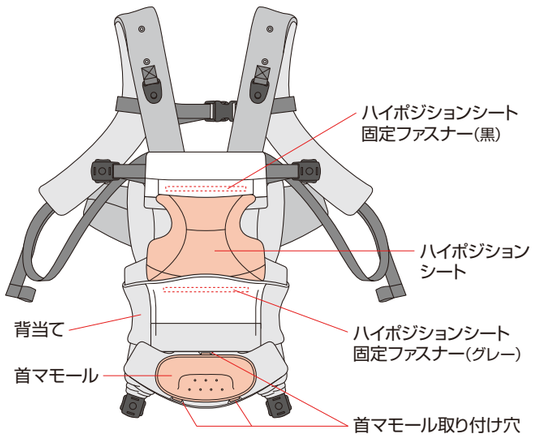
各部の名称 …… 1
表示内容について …… 1
使用条件について …… 2
ご使用上の注意 …… 3
バックルの使い方 …… 5
よだれパッドの使い方 …… 5
ベルトの調節方法 …… 6
ヘッドサポートの使い方 …… 7
首マモールの使い方 …… 8
ハイポジションシートの使い方 …… 8
あしらくサポートの使い方 …… 9
あまったベルトのまとめ方 …… 9
おやすみカーテンの使い方 …… 10
内ポケットの使い方 …… 10
装着のチェックポイント …… 11
使用者への装着方法（お子さまを抱っこする前に） …… 12
新生児タテ対面抱っこ …… 13
生後14日以降かつ体重3.2kg以上～4カ月（体重7kgまで）・首がすわるまで
タテ対面抱っこ …… 15
首がすわった4カ月～36カ月（体重15kgまで）
前向き抱っこ …… 16
ひとり座りができた7カ月～24カ月（体重13kgまで）
おんぶ …… 17
首がすわった4カ月～36カ月（体重15kgまで）
本体の折りたたみ方 …… 19
SGマーク制度について …… 19
点検について …… 19
お手入れについて …… 20
保証とアフターサービスについて …… 20
Q&A …… 21
保証書 …… 22

各部の名称

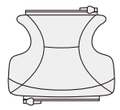
※品番・ロット番号は品質ラベル(腰ベルト裏側に縫い付け)に記載されています。

・ご使用の前に各部の名称をご確認ください。
・製品を取り出した後は、部品がそろっているか、破損がないかご確認ください。
・不足や不良の際は、弊社お客様サポートセンターまですみやかにご連絡ください。(P20参照)



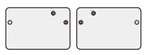


〈付属品〉



ハイポジションシート
(開梱時は本体に装着されています。)

首マモール
(開梱時は本体に装着されています。)



よだれパッド

おやすみカーテン

取扱説明書／保証書
(本書)

・付属品のよだれパッド、おやすみカーテンは取扱説明書(本書)の袋の中に入っています。
※付属品は、使用しないときも取扱説明書と一緒に大切に保管してください。

表示内容について

・「警告」、「注意」の表示は、これらの注意事項が守られなかった場合に予想される、危害・損害の切迫度の大きさにより区分したもので、大変重要な内容です。必ずお守りください。

表　示	表　示　の　内　容
⚠警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が生じる可能性が想定される内容です。

禁止図記号	表　示　の　意　味
🛇	製品の取り扱いにおいて、その行為を禁止しています。
アドバイス	製品の取り扱いで知っておくと便利な内容です。

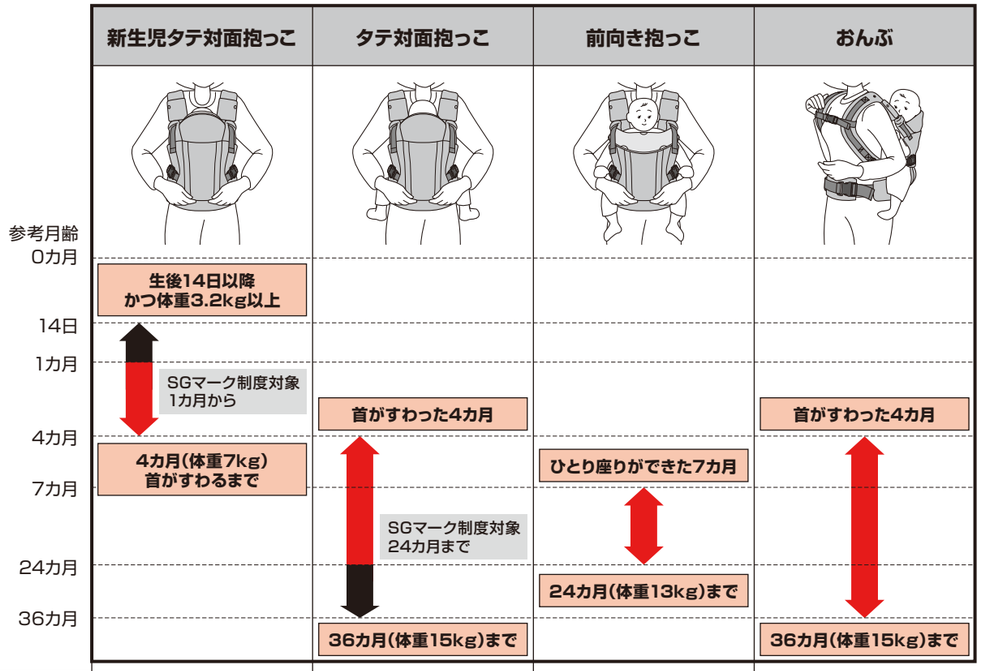
使用条件について

・この製品は外気浴や買い物などに使用するための一人用抱っこひもです。
・下記の各抱っこにおけるお子さまの条件および製品の使用条件を守ってお使いください。

使用開始・使用終了のお子さまの条件

SGマーク被害者救済制度対象の使用期間　SGマーク被害者救済制度対象外の使用期間
(タテ対面抱っこの生後14日以降1カ月まで、24カ月を超えて36カ月まで)

※お子さまの発達には個人差があります。
※お子さまの衣類の厚みや体格によっては使用できない場合があります。



製品本体・付属品の使用条件	新生児タテ対面抱っこ	タテ対面抱っこ	前向き抱っこ	おんぶ
首マモール P8参照	必ず使用する	使用不可(取りはずす)	使用不可(取りはずす)	使用不可(取りはずす)
ハイポジションシート P8参照	使用する お子さまの耳の下が首マモールから出たら取りはずす。(※1)	使用不可(取りはずす)	使用不可(取りはずす)	使用不可(取りはずす)
ヘッドサポート P7参照	起こして使用	起こして使用(窮屈な場合は外側に倒して可)	外側に倒す	起こして使用(窮屈な場合は外側に倒して可)
おやすみカーテン P10参照	使用可	使用可	使用不可(取りはずす)	使用可
あしらくサポート P9参照	お子さまの足が外に出るようになったらせまくする	広くする 足が自然なM字型	せまくする 足が動かしやすい状態	広くする 足が自然なM字型
連続使用の目安	1時間以内	2時間以内	2時間以内	2時間以内

※1:お子さまの耳の下が首マモールから出る場合は、ハイポジションシートは取りはずしてください。詳しくはP8「首すわり前にお子さまの耳の下が首マモールから出る場合」をご確認ください。

ご使用上の注意

・ここに記載した内容は非常に重要です。よくお読みになり、必ず守ってください。

⚠警告 誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。

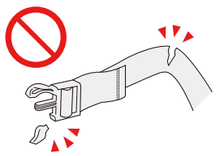
使用条件について

・各抱っこのお子さまの使用条件(発達・体重)を必ず守ること。お子さまの落下や思わぬ事故の原因となります。
・早産児や呼吸器疾患などがある場合は、生後14日以降または3.2kg以上であっても使用しない。使用に際しては、医師にご相談ください。窒息など思わぬ事故につながるおそれがあります。
・お子さまの首がすわるまでは、必ず首マモールを取り付けて使用し、首すわり以降は首マモールを取りはずす。お子さまが体調をくずすおそれがあります。
・お子さまの首がすわるまでは、お子さまと使用者が向き合う姿勢でのみ使用してください。お子さまが体調をくずすおそれがあります。
・首がすわるまでは、ハイポジションシートを使用する。お子さまが埋もれて体調をくずすおそれがあります。お子さまの耳の下が首マモールから出たらハイポジションシートを取りはずしてください。
・前向き抱っこ時はヘッドサポートを起こして使用しない。思わぬ事故につながるおそれがあります。
・首マモールを単体で使用したり、他の製品に取り付けて使用しない。思わぬ事故につながるおそれがあります。

・付属品は使用条件を必ず守る。思わぬ事故につながるおそれがあります。
・本製品に同梱された付属品以外(市販のよだれパッドなど)を取り付けて使用しない。製品が正しく機能できないおそれがあります。
・新生児タテ対面抱っこは連続1時間以上、それ以外の抱っこでは連続2時間以上使用しない。お子さまや使用者の体調をくずすおそれがあります。
・授乳後30分以内は使用しない。お子さまのおなかを圧迫することがあり、消化吸収を妨げるおそれがあります。
・飛行機、車、自転車、バイクでは使用しない。思わぬ事故につながるおそれがあります。

ご使用前に

・バックルなどの部品の破損、ベルトや生地の破れ、ほつれ、きずがある状態では使用しない。お子さまの落下や、思わぬ事故につながるおそれがあります



抱っこひもの装着、お子さまの乗せ降ろしに関して

・お子さまを乗せ降ろしする時は必ず安全な場所で、低い姿勢で行う。お子さまが落下するおそれがあります。他の人に手伝ってもらうとより安全です。おんぶの時は特に注意してください。
・着脱する際はお子さまが開口部から落下しないようお子さまの身体を手で支える。
・バックルをはずした状態で使用しない。お子さまが落下するおそれがあります。
・指定されたバックル類やファスナーを必ずとめ、正しく装着する。お子さまが落下するおそれがあります。
・バックルをとめた後は、ベルトを引っ張るなどしてバックルがはずれないことを確認する。お子さまが落下するおそれがあります。
・ベルトの長さは必ずお子さまや使用者の身体に合わせて調節する。お子さまと使用者の間にすき間がありすぎたり、左右のベルトの長さが違うと、お子さまの予期せぬ動きに対応できず、お子さまが落下するおそれがあります。
・鏡に映して、バックルがとまっているか、正しく装着されているかを確認する。お子さまが落下するおそれがあります。
・あまったベルトは適度な長さにまとめる。ベルトが巻き込まれたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ご使用上の注意

⚠警告 誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。

ご使用中の姿勢、装着状態について

・身体を傾ける際は落下しないようにお子さまの身体を支え、手を離さない。お子さまが落下するおそれがあります。
・着脱する際や身体を傾ける際は頭が下向きにならないように膝を曲げて腰を落とす姿勢で行うよう注意する。お子さまが落下するおそれがあります。
・走ったり、跳んだり、前かがみなどの無理な姿勢をとらない。お子さまが落下するおそれがあります。
・おんぶや抱っこ中に、大きく前かがみしない。お子さまが滑り落ちるおそれがあります。
・お子さまが反り返る、身体を丸めて抱っこひもに潜り込む、両足が外に出ていないなど、不自然な姿勢をとらせない。お子さまの落下やけがにつながるおそれがあります。

・生後4カ月未満のお子さまは、使用者の身体に顔を強く押しあてた状態にしない。窒息するおそれがあります。
・お子さまを使用者の身体に強く縛りつけた状態にしない。お子さまの顔の周りに十分な空間があり、お子さまが頭部を動かす余裕があるように装着する。お子さまが窒息するおそれがあります。
・お子さまの呼吸を妨げる姿勢にならないよう、お子さまのあごの下と胸の間には少なくとも大人の指2本程度のすき間を確保する。気道がふさがると窒息するおそれがあります。
・お子さまの状態に注意しながら使用する。気道をふさぐなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

・料理など家事をする際は、お子さまの様子に注意する。家事に気をとられ、お子さまのやけどなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
・腰ベルトと使用者の間に、お子さまの足が挟まった状態で使用しない。お子さまの足がうっ血したり、落下するおそれがあります。
・使用者およびお子さまの体調がすぐれない時や、使用中に痛みや不快を感じた時は直ちに使用を中止する。使用者およびお子さまが体調をくずしたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
・リュックサックなどと併用しない。バックルと干渉し、バックルがはずれてお子さまが落下しけがをするおそれがあります。
・収納ポケットには尖ったものを入れない。お子さまが傷害を負うおそれがあります。

保管・メンテナンスついて

・製品が入っていた箱や梱包部材、ポリ袋をお子さまの手の届く所に放置しない。お子さまがかぶったりして窒息するおそれがあります。
・バックルは使用していない時もはずしたままにしない。お子さまがバックルに指を入れて、けがをするおそれがあります。
・ベルトの先端の返し縫い部をほどいたり、切り落としたりしない。ベルトがはずれお子さまが落下するおそれがあります。
・本製品を改造(染色など)しない。思わぬ事故につながるおそれがあります。

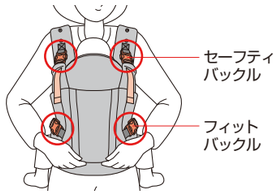
⚠注意 誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が生じる可能性が想定される内容です。

・装着時は足元が見えにくくなる場合がありますので歩行には十分注意してください。
・暖房器具の近くなど高温になる場所に製品を放置しない。
・直射日光のあたる場所に製品を保管しない。変色や劣化が早まります。
・その他、荷物の運搬など、お子さまを抱っこ、おんぶする以外の目的での使用をしない。

バックルの使い方

⚠警告
・バックルをとめた後は、ベルトを引っ張るなどしてバックルがはずれないことを確認する。お子さまが落下するおそれがあります。
・バックルをはずした状態で使用しない。お子さまが落下するおそれがあります。

セーフティバックル・フィットバックル

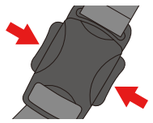


〈とめる〉

●「カチッ」と音がするまで差し込む。

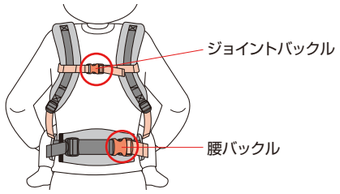
〈はずす〉

●→←を押して解除し、はずす。

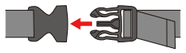


解除ボタンの中央部分を押す。

ジョイントバックル・腰バックル

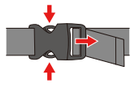


〈とめる〉



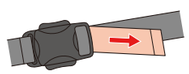
●「カチッ」と音がするまで差し込む。

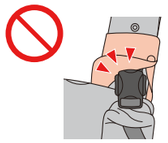
〈はずす〉

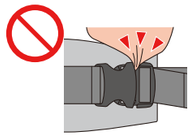


●→←を押して解除し、はずす。

チェックポイント





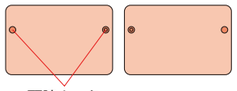


□ベルトを軽く引っ張り、はずれない。
□バックルの間によだれパッドや衣服の生地などが挟まっていない。

よだれパッドの使い方

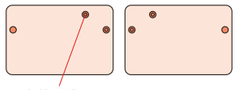
・お子さまがセーフティバックルをかんだり、バックルが顔に当たる位置に来る場合はよだれパッドで保護してください。

〈表〉



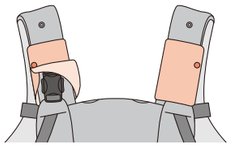
両脇ホック

〈裏〉



本体固定ホック

〈本体装着状態〉



〈よだれパッドの取り付け方〉

❶よだれパッドを本体固定ホックで肩ベルトにとめ、
❷パッドを肩ベルトに巻き付けて
❸両脇のホック同士でとめる。
・ホックが外側に来るような向きが正しい向きです。

〈よだれパッド使用時のバックルのとめ方〉

❶よだれパッドをめくる。
❷バックルをとめ、バックルがはずれないことを確認する。
❸よだれパッドを再度かぶせる。

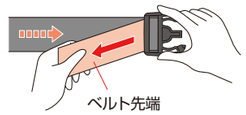
⚠警告
・本製品に付属しているよだれパッド以外のパッド類を使用しない。バックルの可動範囲を制限してしまうなど、本製品の機能を十分に発揮できないおそれがあります。

ベルトの調節方法

⚠警告
・ベルトの長さは必ずお子さまや使用者の身体に合わせて調節する。お子さまと使用者の間にすき間がありすぎたり、左右のベルトの長さが違うと、お子さまの予期せぬ動きに対応できず、お子さまが落下するおそれがあります。

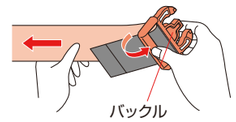
基本のベルト長さ調節方法

〈短くする(締める)〉



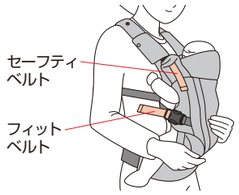
●ベルト先端を矢印方向に引く。

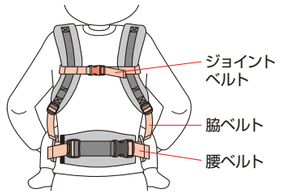
〈長くする(ゆるめる)〉



●バックルもしくはアジャスターを立ててベルトを引き、ゆるめる。

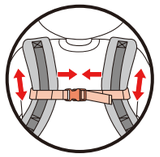
・各ベルトの調節方法は共通です。
・イラストは腰ベルトで説明しています。





使用者の身体にフィットさせる

■ジョイントベルトの調節



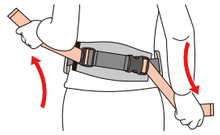
〈背中側〉

・使用者の肩甲骨の下あたりに来るように位置を調節します。
・肩ベルトがずり落ちない幅にベルト長さを調節します。

■腰ベルトの調節

腰ベルトの上側が腰骨より少し上になる位置に調節します。腰パッドは背中の真ん中に来るようにします。

〈腰ベルトの装着後の調節〉



左右のベルトを交互に上下にしながら引っ張り身体にフィットさせます。

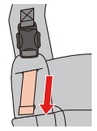
お子さまと使用者の距離を調節

〈短くする(締める)〉
お子さまが使用者に引き寄せられます。

〈長くする(ゆるめる)〉
お子さまと使用者の間にスペースができます。

■セーフティベルトの調節

〈短くする(締める)〉

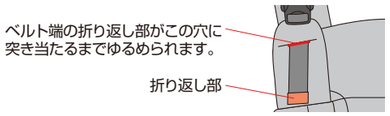


●ベルト先端を矢印の方向に引く。

〈長くする(ゆるめる)〉

●バックルを立ててベルトを引き、ゆるめる。
※このとき解除ボタンには触らないようにしてください。

〈調節長さについて〉



※セーフティベルトは、開梱時最も短い状態に調節されています。

■フィットベルトの調節

「基本のベルト長さ調節方法」のように長さを調節します。

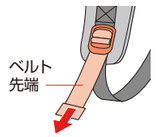
使用者の身体にフィットさせる

■脇ベルトの調節

脇ベルト長さを調節することで
・使用者の身体にフィットさせます。
・お子さまの使用者に対する位置(高さ)を調節します。

お子さまと使用者の距離を調節

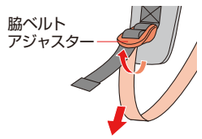
〈短くする(締める)〉



●ベルト先端を矢印方向に引く。

お子さまが使用者に引き寄せられます。
(お子さまの位置が上がります)

〈長くする(ゆるめる)〉



●アジャスターを立ててベルトを引き、ゆるめる。

お子さまが使用者から離れます。
(お子さまの位置が下がります)

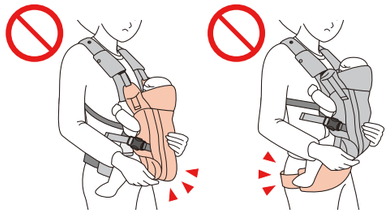
ベルトの調節方法（つづき）

各ベルトの調節について

・各ベルトの長さや位置が適切に調節されていない場合、お子さまの位置が下がったり、身体にフィットせず負担がかかる場合があります。
※使用者やお子さまの体格によっても調節の程度は変わります。

●お子さまのお尻の位置が腰ベルト位置より下がる場合

・脇ベルト、セーフティベルト、フィットベルトがゆるい可能性があります。各ベルトを締めてください。
・腰ベルト位置が高すぎる可能性があります。少し腰ベルト位置を下げてください。



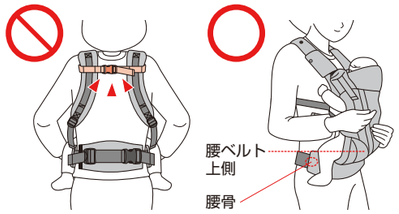
●お子さまの位置が全体的に下がっている場合

・腰ベルト位置が下がりすぎている可能性があります。少し腰ベルト位置を上げてください。
・脇ベルト、セーフティベルト、フィットベルトがゆるい可能性があります。各ベルトを締めてください。

●使用者の肩や腰に負担がかかると感じる場合

・ジョイントベルト位置が高すぎる可能性があります。肩甲骨下辺りまで下げてください。
・腰パッドは背中の真ん中に来るように調節してください。
・腰ベルトの上側が腰骨より少し上になるように調節してください。
・腰ベルトがゆるんでいる場合は、ベルトを左右から引っ張り、フィットさせてください。

※P11の装着のチェックポイントも併せてご確認ください。



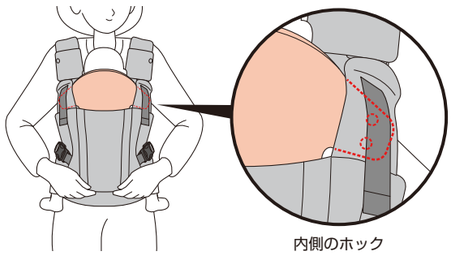
ヘッドサポートの使い方

・ヘッドサポートはお子さまの頭と首を支えます。各抱っこのしかたによって、ヘッドサポートの使用方法が異なりますので使用条件をよくご確認ください。
・おやすみカーテンと併用できます。（※前向き抱っこ時はおやすみカーテン使用不可）

〈使用方法〉

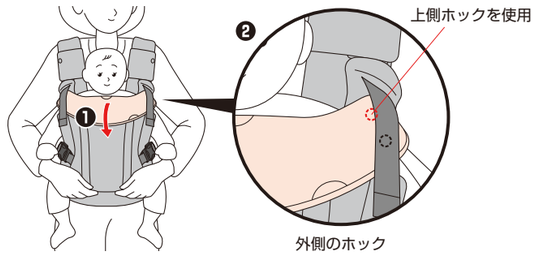
新生児タテ対面抱っこ	タテ対面抱っこ	前向き抱っこ	おんぶ
起こして使用	起こして使用 （窮屈な場合は外側に倒しても可）	外側に倒す	起こして使用 （窮屈な場合は外側に倒しても可）

ヘッドサポートを起こして使用する場合



●ヘッドサポートのホック（上下2カ所）をセーフティベルト内側の固定ホックにとめる。（左右）

ヘッドサポートを外側に倒して使用する場合



❶ヘッドサポートを外側に折り返す。
❷ヘッドサポートのホック（上下2カ所のうちの上側のみ）をセーフティベルト外側の固定ホックにとめる。（左右）

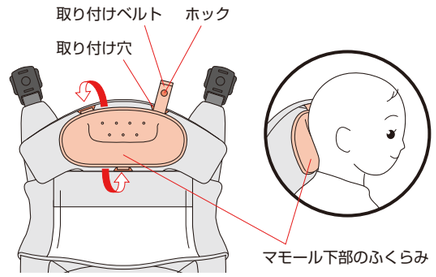
・鏡などに姿を映して、お子さまの頭の位置をときどき確認してください。

⚠警告
・お子さまがヘッドサポートを嫌がったり、ひどく身体を後ろに反り返らせる場合は、抱っこひもの使用を中止する。ホックがはずれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。
・ヘッドサポートのホックは指定された方法で必ず固定する。思わぬ事故につながるおそれがあります

首マモールの使い方

新生児タテ対面抱っこで使用

・首マモールは、首すわり前のお子さまの首と頭を支え、姿勢を正しく保ち、呼吸をしやすくします。



〈背当て内側〉

❶上部取り付けベルトをヘッドサポート上部の取り付け穴内部のホックにとめる。（左右）
❷下部取り付けベルトをヘッドサポート下部中央の取り付け穴内部のホックにとめる。

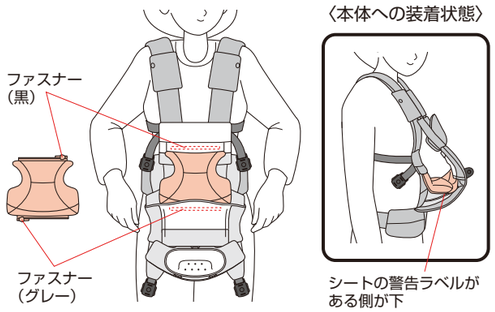
⚠警告
・首がすわるまでは、必ず首マモールを取り付けて使用し、首すわり以降は首マモールを取りはずす。お子さまが体調をくずすおそれがあります。
・首マモールを単体で使用したり、他の製品に取り付けて使用しない。思わぬ事故につながるおそれがあります。

ハイポジションシートの使い方

新生児タテ対面抱っこで使用

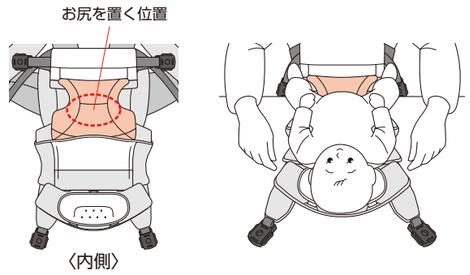
・ハイポジションシートを取り付けることで、首すわり前のお子さまの安定した姿勢を保ちます。

本体への装着方法



❶抱っこひも本体内側に、ハイポジションシートを同じ色のファスナー同士でとめる。
❷ファスナーは最後まで引き、ファスナーが開かないよう引手を内側に倒す。

お子さまを乗せるとき



●首マモールのふくらみに合わせてお子さまの首をのせ、お子さまの足をやさしく広げてハイポジションシートの上にお尻をのせる。

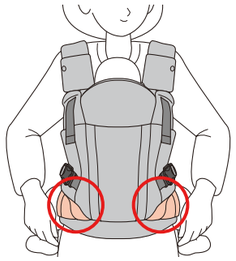
⚠警告
・首がすわるまでは、ハイポジションシートを使用する。お子さまが埋もれて体調をくずすおそれがあります。お子さまの耳の下が首マモールから出たら取りはずしてください。
・首がすわったお子さまにはハイポジションシートを使用しない。お子さまが体調をくずすおそれがあります。
・ファスナーは最後まで引き、必ず引手を内側に倒す。引手を倒してない場合、ファスナーがはずれ、バランスを崩して思わぬ事故につながるおそれがあります。

首すわり前にお子さまの耳の下が首マモールから出る場合

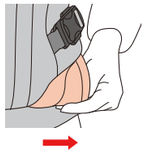
・お子さまの身長や体格には個人差があります。首すわり前であっても、お子さまの耳の下が首マモールから出る場合は、ハイポジションシートを取りはずしてください。首がすわり安定してくるまで、首マモールははずさないでください。

あしらくサポートの使い方

・あしらくサポートで股幅を調節し、お子さまの自然なM字脚姿勢が無理なくできるようにサポートします。

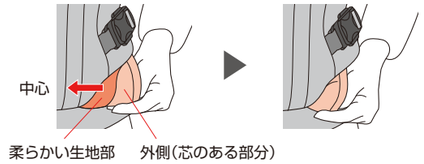


広くする場合



●あしらくサポートの外側を手で持ち、引き出す。

せまくする場合



●外側(芯のある部分)を手でもち、内側の柔らかい生地部を中心部の裏側に向かって入れ込むようにしてください。

新生児タテ対面抱っこ(ハイポジションシート使用)

お子さまの足の状態を確認してください。

〈足が外に出ない〉

広くする

広くして、あしらくサポートの上に足を乗せる

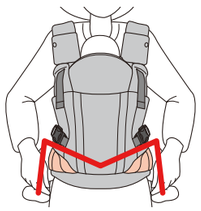
〈足が外に出る〉

せまくする

せまくして、あしらくサポートの外に足を出す

タテ対面抱っこ・おんぶ

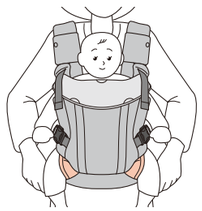
広くする



お子さまの足が自然なM字型に

前向き抱っこ

せまくする

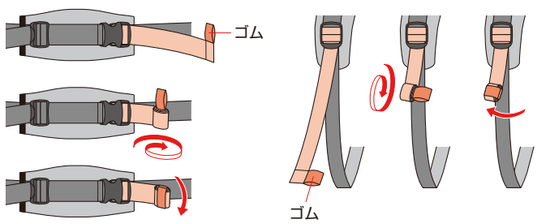


⚠警告

・前向き抱っこの際は、鏡に映して、股幅をせまくした状態になっているか、足が動かしやすい状態になっているかを確認する。お子さまが体調をくずすおそれがあります。

お子さまが足を前にも自由に動かせる

あまったベルトのまとめ方



●あまったベルトを折りたたみ、先端のゴムでまとめる。

⚠警告

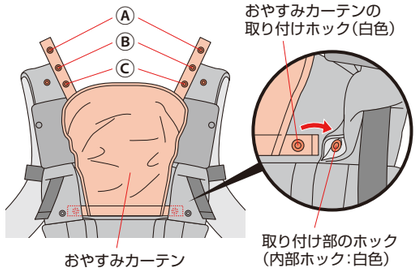
・あまったベルトは適度な長さにまとめる。ベルトが巻き込まれたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

おやすみカーテンの使い方

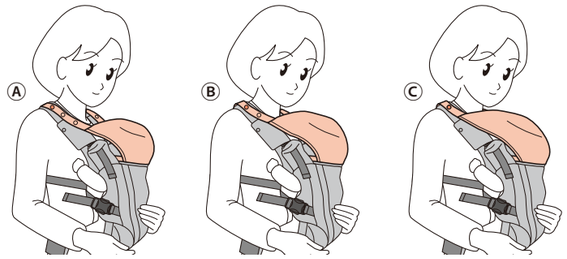
※開梱時、おやすみカーテンは取扱説明書の袋の中に入っています。

・風よけや日差しよけにもなります。
・前向き抱っこ時はおやすみカーテンをご使用できません。
・ヘッドサポート、首マモールと併用できます。
・お子さまを乗せる前に、おやすみカーテンを本体に取り付けておいてください。

〈取り付け・調節方法〉



❶おやすみカーテンの取り付けホック(白色)をセーフティベルト脇の取り付け部のホック(内部ホック:白色)にとめる。(左右)



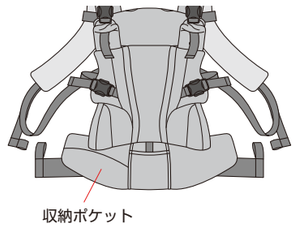
❷ホックを肩ベルトにとめる。
・お子さまに合わせてⒶⒷⒸいずれかで調節してください。

アドバイス　お子さまの顔が隠れることがあります。お子さまの状態を確認するようにしてください。

〈おんぶの時の使用〉

・鏡などに姿を映して、おやすみカーテンの状態とお子さまの様子をときどき確認してください。

〈収納方法〉



・未使用時は腰ベルトの前面にある収納ポケットに収納できます。

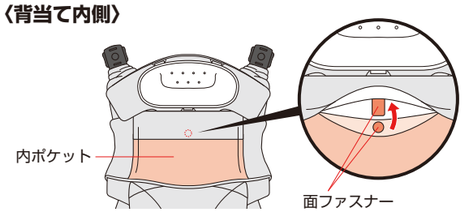
⚠警告

・おやすみカーテンを使用する際は、特にお子さまの様子に注意する。口がふさがると窒息するおそれがあります。
・お子さまがおやすみカーテンを嫌がったり、ひどく身体を後ろに反り返らせる場合は抱っこひもの使用を中止する。ホックがはずれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。
・収納ポケットには尖ったものを入れない。お子さまが傷害を負うおそれがあります。

内ポケットの使い方

・背当ての内ポケットは、保冷剤やミニタオルなどを入れるポケットとしてご利用いただけます。
※保冷剤は本製品には付属しておりません。

〈背当て内側〉



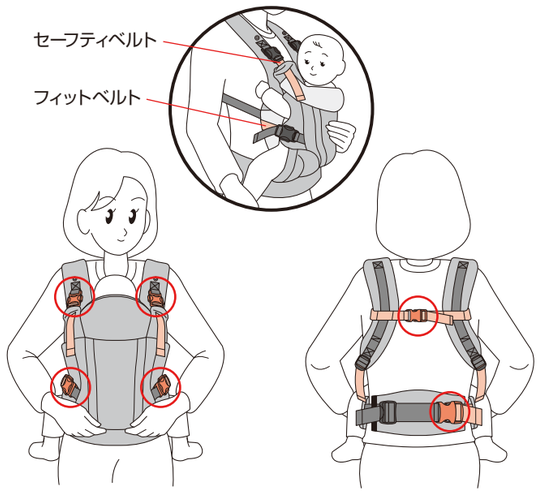
・ポケットに入れたものが落下しないように開口部は面ファスナーでとめてください。セーフティバックル、フィットバックルをはずした時に背当てが開き、逆さまになるため、中のものが落ちる場合があります。
・面ファスナーは、ポケットに何も入れていない時でも、直接お子さまの肌に触れないように必ずとめてください。
・保冷剤からの水滴により抱っこひもが濡れた場合は、放置せず、十分乾燥させてください。カビなどが発生するおそれがあります。

⚠警告

・ポケット には尖ったものや固いものなどを入れない。お子さまが傷害を負うおそれがあります。
・ポケットにカイロは入れないでください。
〈保冷剤を入れてご使用になる場合には〉
・保冷剤はミニタオルに巻くなどして全体を包み、必ず肌に直接触れないようにしてご使用ください。凍傷などのおそれがあります。
・ご使用される保冷剤の注意事項をよく確認の上、ご使用ください。
・長時間ポケットに保冷剤を入れた状態で使用しないでください。お子さまの身体が冷えすぎていないか、時々お子さまの状態を確認の上、ご使用ください。

装着のチェックポイント

・抱っこひもの装着方法はP12以降をご確認ください。
・正しく装着されているか、鏡に姿を映すなどして確認してください。



バックル類のとめ忘れはありませんか

□全てのバックルが確実にとまっている。

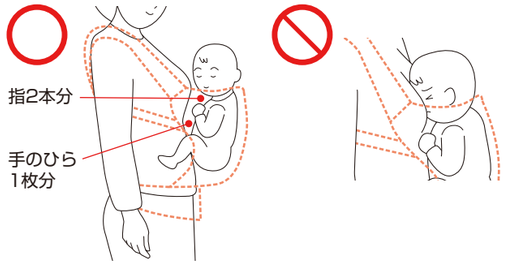
お子さまの位置・姿勢は適切ですか

□お子さまの両足がフィットベルトの下から出ている。
□お子さまの両腕がセーフティベルトの下（フィットベルトの上）から出ている。
□お子さまが抱っこひもの中心位置にきている。（左右どちらかに偏っていない。）
□お子さまの両足が腰ベルトと使用者の間に挟まっていない。

ベルトのゆるみはありませんか

□各ベルトの長さをお子さまと使用者に合わせて調節している。
□使用者とお子さまの間にすき間が空きすぎていない。
□セーフティベルト、フィットベルト、脇ベルト、腰ベルトの長さが左右で違いすぎない。

お子さまの呼吸を妨げていませんか

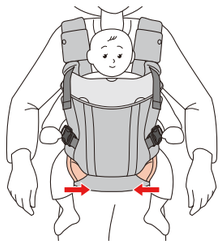


□お子さまのあごの下と胸の間には少なくとも大人の指2本程度のすき間がある。
□お子さまの腹部と使用者の間に手のひら１枚分のすき間がある。（首が完全にすわったら、こぶしひとつ分のすき間）
□抱っこひもや使用者の身体でお子さまの鼻や口をふさいでいない。

あしらくサポートは適切に調節していますか

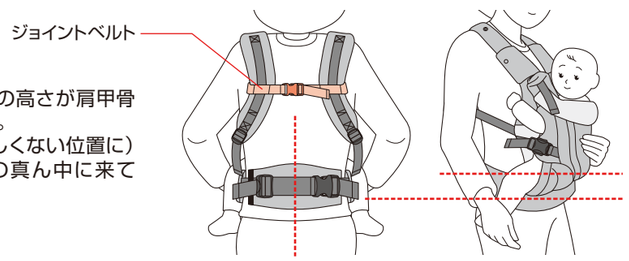
・タテ対面抱っこ
・おんぶ

・前向き抱っこ



□【タテ対面抱っこ、おんぶ】
あしらくサポートが広く、お子さまの足が自然なM字型になっている。
□【前向き抱っこ】
あしらくサポートがせまく、足を前にも自由に動かせるようになっている。
※新生児タテ対面抱っこでお子さまの足が外に出る場合はせまくする。

使用者の肩や腰の負担を軽減するために



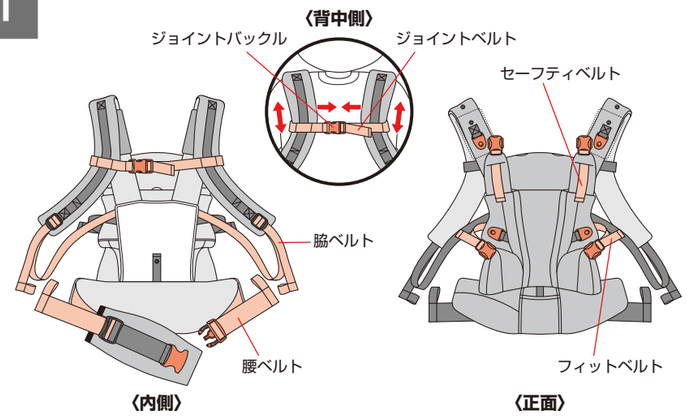
□ジョイントベルトの高さが肩甲骨の下あたりにある。
（おんぶの時は苦しくない位置に）
□腰パッドが背中の真ん中に来ている。

□腰ベルトの上側が腰骨より少し上に来ていて、地面と水平になっている。
□お子さまのお尻が腰ベルトより下がりすぎていない。

使用者への装着方法（お子さまを抱っこする前に）

・お子さまを抱っこひもに乗せる前に、下記の手順で使用者に抱っこひもを装着してください。

1



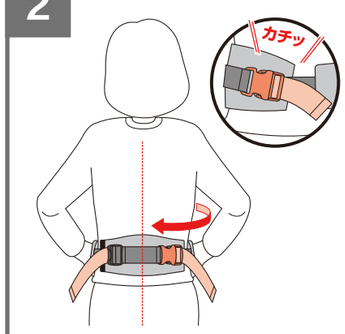
本体の準備

・ジョイントベルトは使用者の肩甲骨の下あたり（※）で、肩ベルトがずり落ちない幅に調節しておく。
・ジョイントバックルをとめる。
・腰ベルト・脇ベルトは左右均等に、ややゆるめになるように調節する。（P6参照）
・ジョイントバックル以外のバックルははずす。
・フィットベルトはゆるめておく。（P6参照）
・腰すわり以降のお子さまの場合は、セーフティベルトは事前にゆるめておき、装着後に調節する。

ハイポジションシート、ヘッドサポート、首マモールは各抱っこの使用条件に合わせて装着・調節しておく。

※使用者の体格によっては、肩甲骨の下では肩ベルトがずり落ちる場合があります。その場合は肩甲骨の上にジョイントベルトを上げてご使用ください。

2

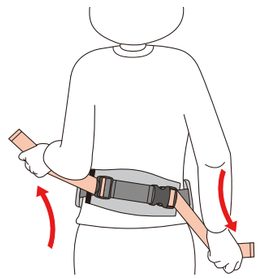


腰バックルをとめる

腰バックルをとめた後、腰パッドが背中の真ん中に来るように回す。

3

アドバイス　左右のベルトは同じ長さになるようにする。



腰ベルトの長さを調節する

左右のベルトを交互に上下にしながら強く引っ張り調節する。

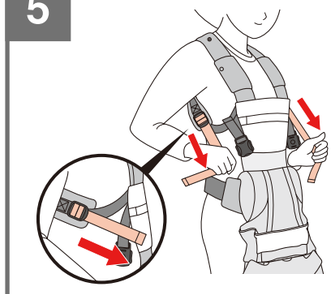
4

抱っこひもをかぶる

ジョイントバックルがとまっていることを確認し、両腕を通して抱っこひもを頭からかぶる。

※両腕を通したあとに、ジョイントバックルをとめることもできます。

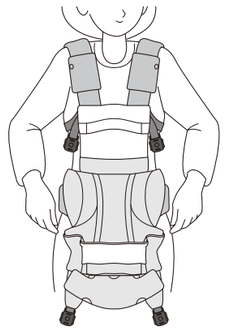
5



脇ベルトの長さを調節する

左右脇ベルトの先端を引っ張り、使用者の身体にフィットさせる。
左右のベルトは同じ長さになるようにする。

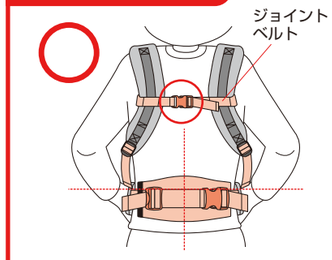
6



完成

お子さまを乗せる準備が完了。

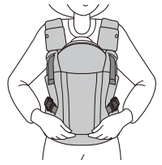
チェックポイント



□腰ベルトの上側が腰骨より少し上に来ている。
□腰パッドが背中の真ん中に来ている。
□ジョイントベルトは肩甲骨の下あたりにある。
□ジョイントバックルがとまっている。
□使用者に合わせてベルトを調節している。

新生児タテ対面抱っこ

生後14日以降かつ体重3.2kg以上〜4カ月(体重7kgまで)・首がすわるまで
※生後14日以降1カ月まではSG マーク制度の対象外です。



連続使用の目安	ハイポジションシート	ヘッドサポート	首マモール	あしらくサポート	おやすみカーテン
1時間以内	使用する お子さまの耳の下が首マモールから出たら取りはずす。※1	起こして使用	必ず使用 ◎	お子さまの足が外に出るようになったらせまくする	使用可 ○

※1:お子さまの耳の下が首マモールから出る場合は、ハイポジションシートは取りはずしてください。
詳しくはP8「首すわり前にお子さまの耳の下が首マモールから出る場合」をご確認ください。

・首がすわるまでは、お子さまの身体に負担がかかりすぎないように1時間以内でご使用ください。
特に生後1カ月までは常にお子さまの様子をご確認ください。

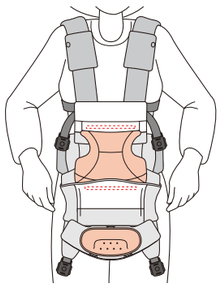
お子さまの乗せ降ろしに関してのご注意(他の抱っこ方法においても共通です。)

・お子さまの乗せ降ろしはソファなど安全な場所で、低い姿勢で行ってください。慣れるまでは他の人に手伝ってもらうとより安全です。
・乗せ降ろしでは、常にお子さまを手で支えながら行ってください。

お子さまを乗せる

・使用者に抱っこひもを装着した状態(P12 6 参照)から行います。
・安全な場所にお子さまを寝かせておいてください。

1

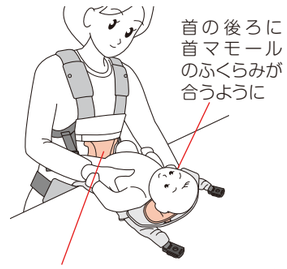


〈事前準備〉
本体にハイポジションシート、首マモールを取り付け、ヘッドサポートを起こす。(P7、P8参照)

2

お子さまを抱き上げる
お子さまの落下に注意し、お子さまの首と頭、お尻をしっかりと支えながら抱き上げる。

生後1カ月頃まではベッドやソファなどの安全な台の上で抱っこひもの上に寝かせた状態で行うと安心です。



お子さまの足をやさしく広げてハイポジションシートの上にのせる。(P8参照)

※開梱時はハイポジションシート、首マモールは本体に取り付けられています。

3

アドバイス
バックルがお子さまに当たらないよう、勢いをつけずにお子さまにかぶせるようにして背当てを引き上げます。

首マモール下部のふくらみをお子さまの首の後ろに合わせる。

背当てを引き上げる
お子さまの身体を使用者に預けるようにし、お子さまを必ず支えながら、もう片方の手で背当てを引き上げる。

生後1カ月頃までは、使用者が前かがみになった状態でセーフティバックルをとめるとお子さまの姿勢が保持されやすく安心です。

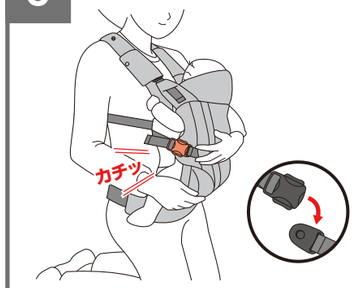
前かがみになり、片方のバックルをとめる。お子さまを首の後ろ側から支え、もう片方のバックルをとめてから、上体を起こす。
※イラストはよだれパッドをはずした状態。

新生児タテ対面抱っこ

4

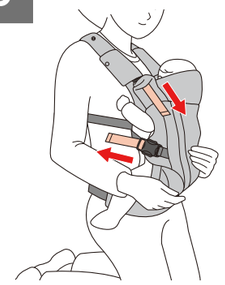
セーフティバックルをとめる
左右のセーフティバックルをとめた後、ベルトを軽く引っ張り、バックルがはずれないことを確認する。

5



フィットバックルをとめる
お子さまの足の上にフィットベルトが来ていることを確認し、フィットバックルをとめる。(左右)

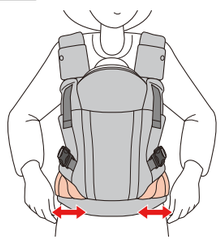
6



ベルトを調節する
フィットベルト、セーフティベルトを調節する。(左右)

※先にフィットバックルをとめることもできます。

7



〈足が外に出ない〉

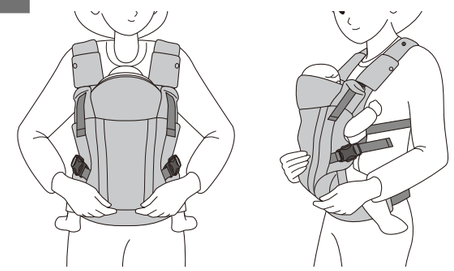
広くして、その上に足を乗せる。

〈足が外に出る〉

せまくして、外側に足を出す。

あしらくサポートの調節
足が外に出るようになるまでは、あしらくサポートを広くして、その上に足をのせる。外に足が出るようになったらせまくする。(P9参照)

8



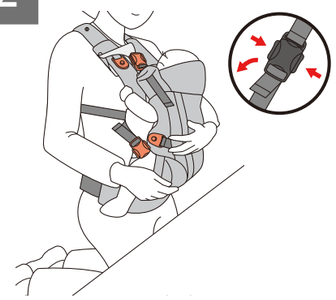
新生児タテ対面抱っこの完成
装着状態とお子さまの状態を確認してください。(P11チェックポイント参照)

お子さまを降ろす　常にお子さまを手で支えながら行ってください。

1

低い姿勢になる
安全な場所で、お子さまを手で支えながら低い姿勢になる。

2



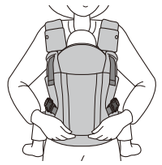
バックルをはずす
必ずお子さまを支えたままで、セーフティバックルとフィットバックルをはずす。

3

お子さまを降ろす
お子さまの首の後ろを支えたまま、抱っこひもごと台の上へ降ろし、抱っこひもを引き抜く。

タテ対面抱っこ

首がすわった4カ月〜36カ月（体重15kgまで）
※24カ月を超えて36カ月まではSGマーク制度対象外です。



連続使用の目安	ハイポジションシート	ヘッドサポート	首マモール	あしらくサポート	おやすみカーテン
2時間以内	使用不可 ×	起こして使用 （窮屈な場合は外側に倒しても可）	使用不可 ×	広くする	使用可 ○

・使用者に抱っこひもを装着した状態（P12 6 参照）から行います。

1

お子さまを抱き上げる

お子さまの落下に注意し、しっかりと支えて抱き上げる。

2

背当てを引き上げる

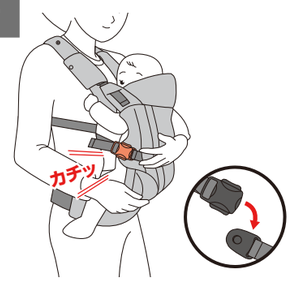
お子さまの身体を使用者に預けるようにし、お子さまを必ず支えながら、もう片方の手で背当てを引き上げる。

3

セーフティバックルをとめる

左右のセーフティバックルをとめた後、ベルトを軽く引っ張り、バックルがはずれないことを確認する。

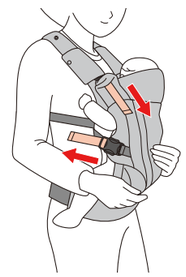
4



フィットバックルをとめる

お子さまの足の上にフィットベルトが来ていることを確認し、フィットバックルをとめる。（左右）

5

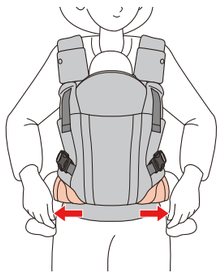


ベルトを調節する

フィットベルト、セーフティベルトを調節する。（左右）

※先にフィットバックルをとめることもできます。

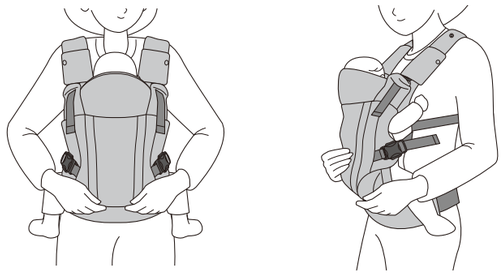
6



あしらくサポートの調節

お子さまの足をしっかり支えるために左右のあしらくサポートを広げる。（P9参照）

7



タテ対面抱っこの完成

装着状態とお子さまの状態を確認してください。（P11チェックポイント参照）

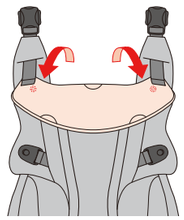
前向き抱っこ

ひとり座りができた7カ月〜24カ月（体重13kgまで）

連続使用の目安	ハイポジションシート	ヘッドサポート	首マモール	あしらくサポート	おやすみカーテン
2時間以内	使用不可 ×	外側に倒す	使用不可 ×	せまくする	使用不可 ×

・使用者に抱っこひもを装着した状態（P12 6 参照）から行います。
・前向き抱っこは、前に乗り出す姿勢になりがちでお子さまの身体に負担がかかりやすいため、お子さまの様子を確認しながらご使用ください。

1



〈事前準備〉

ヘッドサポートを外側に折り返し、ホックでとめる。（P7参照）

2

お子さまを前向きに抱っこする

お子さまの落下に注意し、しっかりと支えて抱き上げる。

3

背当てを引き上げる

お子さまを必ず支えながらもう片方の手で背当てを引き上げる。

4

フィットバックルをとめる

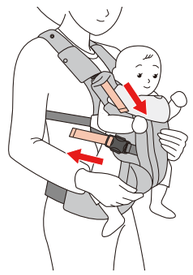
お子さまの足の上にフィットベルトが来ていることを確認し、フィットバックルをとめる。（左右）

5

セーフティバックルをとめる

左右のセーフティバックルをとめた後、ベルトを軽く引っ張り、バックルがはずれないことを確認する。

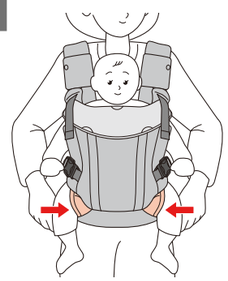
6



ベルトを調節する

フィットベルト、セーフティベルトを調節する。（左右）

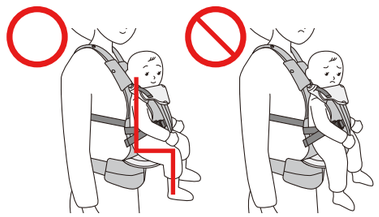
7



あしらくサポートの調節

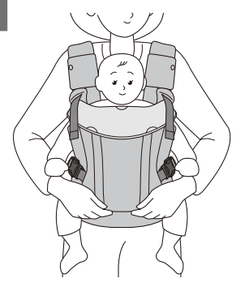
あしらくサポートを中心側に入れ込み、せまくする。（P9参照）

姿勢のポイント



お子さまが直立したような姿勢の時は両太ももを持ち上げて膝が前方に向くようにする。
お子さまの背中が使用者にもたれて椅子に座っているような姿勢になるように。

8



前向き抱っこの完成

装着状態とお子さまの状態を確認してください。（P11チェックポイント参照）

おんぶ

首がすわった4カ月〜36カ月（体重15kgまで）

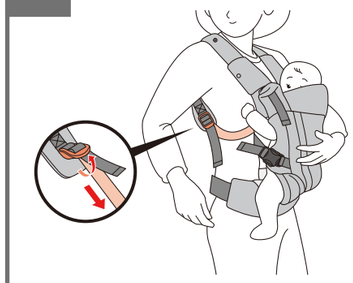
連続使用の目安
2時間以内

ハイポジション シート	ヘッド サポート	首マモール	あしらく サポート	おやすみ カーテン
使用不可 ×	起こして使用（窮屈な場合は外側に倒しても可）	使用不可 ×	広くする	使用可 ○

タテ対面抱っこからおんぶへ

タテ対面抱っこの完成（P15参照）の状態から行います。

1



脇ベルトをゆるめる

タテ対面抱っこの状態から、お子さまを支えた状態で左右の脇ベルトをゆるめる。

2

右腕を上に抜く

右腕を肩ベルトの下からくぐらせ、そのまま腕を上に抜く。

3

左ひじを下に抜く

左ひじを脇ベルトの内側にくぐらせ、そのまま下に抜く。

4

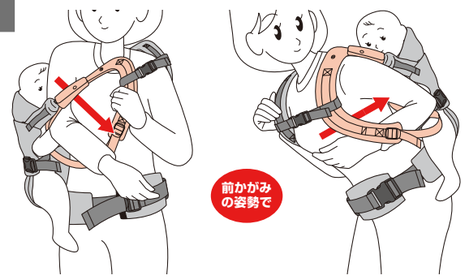
⚠注意

- 背面へお子さまを移動させるとき、左手で腰バックルおよびジョイントバックルをつかまない。バックルがはずれる危険があります。
- 洋服やアクセサリーなどが引っ掛からないように注意する。

お子さまを背中に移動する

右手でお子さまを支え、左手で腰ベルトをもち、お子さまを身体に添わせながら右腕の下にくぐらせ、背面にゆっくり移動させる。

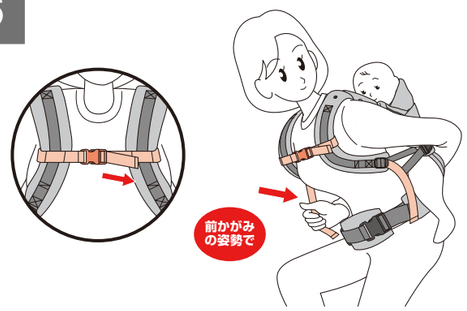
5



右腕・左腕を通す

右腕を通して肩ベルトを肩の位置まで戻し、同様に左腕も肩ベルトに通す。前かがみの姿勢で、お子さまの落下に気を付けて行う。肩ベルトがねじれていないか確認する。

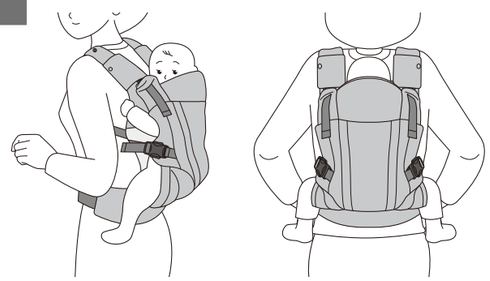
6



ベルト長さ・位置を調節する

脇ベルト先端を引っ張り、調節する。ジョイントベルトは使用者の脇の下付近に移動させ、長さを調節する。

7



おんぶの完成

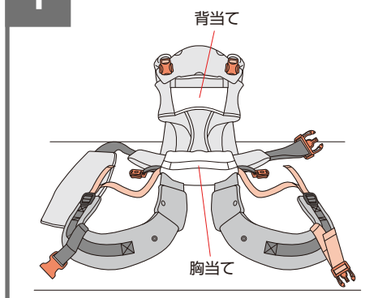
鏡などに映して、お子さまの腕がフィットベルトの上に出ていること、お子さまのお尻が腰ベルトより下がりすぎていないことを確認する。

おんぶ

ソファなどを使用して装着

背もたれのある安全なソファなどの上で行いましょう。

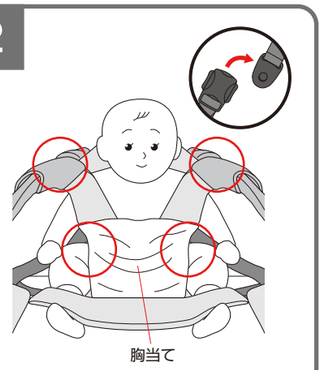
1



〈事前準備〉

- すべてのバックルをはずして抱っこひもをひろげる。
- 使用者に合わせてジョイントベルトの長さを調節する。
- 脇ベルトはゆるめにしておく。

2



お子さまに装着する

お子さまを抱っこひもの背当てと胸当ての間に座らせ、フィットバックル、セーフティバックルをとめ、長さを調節する。
腰ベルトはお子さまの足の上に出しておく。

3

バックルをとめ、背負う

左右のベルトを肩にかけ、ジョイントバックルをとめ、お子さまを背負う。
腰ベルトがゆるめの状態で腰バックルをとめる。

4

脇ベルトを調節する

座った姿勢のまま、お子さまのお尻を片手で支えながら片側ずつ脇ベルトを引っ張り、締める。

5

腰ベルトを調節する

前かがみの姿勢のまま立ち上がる。
お子さまの足を腰ベルトではさんでいないことを確認し、腰ベルトの位置と長さを調節する。

6

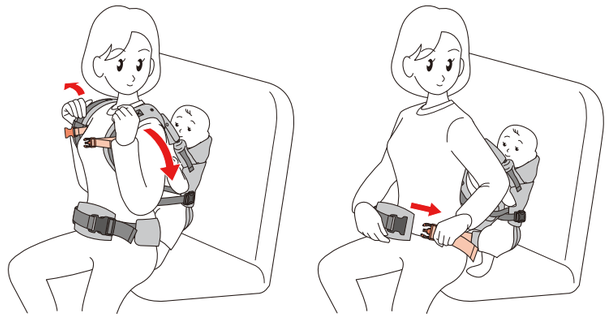
アドバイス　脇ベルトがゆるい場合やお子さまが下がり過ぎる場合は、ベルトを締めるのを手伝ってもらいましょう。

おんぶの完成

鏡などに映して、お子さまの腕がフィットベルトの上に出ていること、お子さまのお尻が腰ベルトより下がりすぎていないことを確認する。

おんぶの降ろし方

背もたれのある安全なソファなどの場所で、低い姿勢で行いましょう。



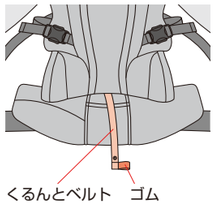
- ソファなどに座り、ジョイントバックルをはずす。
- 肩ベルトを肩から抜いて、お子さまをゆっくり降ろし、腰バックルをはずす。
- セーフティバックル、フィットバックルをはずしてお子さまから抱っこひもを取りはずす。

※P17の「タテ対面抱っこからおんぶへ」の逆の手順でお子さまをおんぶからタテ対面抱っこにしてから降ろすこともできます。

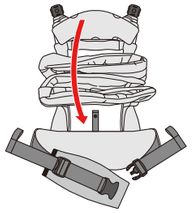
本体の折りたたみ方

首マモール、ハイポジションシートを付けたままでも
折りたたむことができます。

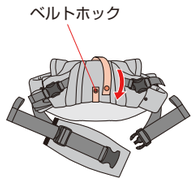
〈本体のみで折りたたむ〉



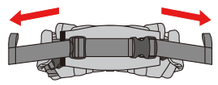
❶くるんとベルトを収納ポケットから取り出し、ゴムをほどく。



❷左右の肩ベルトをまとめて、本体と一緒に折りたたむ。

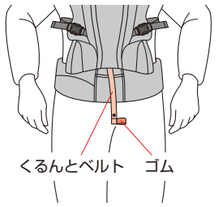


❸くるんとベルトを巻き付け、ベルトホックにとめる。

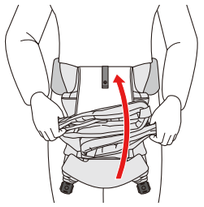


❹腰バックルをとめて、腰ベルトを調節する。

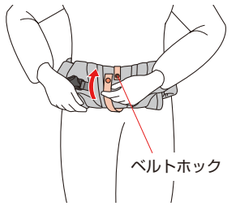
〈装着状態で折りたたむ〉



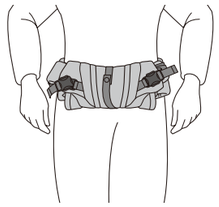
❶くるんとベルトを収納ポケットから取り出し、ゴムをほどく。



❷左右の肩ベルトをまとめて、本体と一緒に折りたたむ。



❸くるんとベルトを巻き付け、ベルトホックにとめる。



・腰ベルトを着用したままでもご使用いただけます。

SGマーク制度について

SGマーク制度は、SGマーク付き製品の欠陥によって人身事故が発生した場合に、製品安全協会が賠償措置を行う制度です。

・抱っこひもの場合、ご購入後3年以内の製品が対象となります。
・SGマーク付き製品そのものが故障した場合に補償するものではありません。
・人的損害(治療費等)を賠償するものであり、物的損害は賠償の対象となりません。

〈抱っこひものSGマーク制度の適用対象月齢は以下のとおりです。〉

・タテ対面抱っこ：1カ月から24カ月(体重13kg)まで
・前向き抱っこ　：7カ月から24カ月(体重13kg)まで
・おんぶ　　：4カ月から36カ月(体重15kg)まで

※タテ対面抱っこの生後14日以降1カ月まで、24カ月を超えて36カ月まではSGマーク制度の対象外です。

【製品の欠陥によって事故が起きた場合】

事故が発生した日から60日以内に製品安全協会へ連絡してください。
または、事故が起きたらすぐに製品安全協会へ連絡してください。

ご連絡は製品安全協会ホームページの「SGマーク賠償制度とは」の
下部にある事故申出フォームをお使いください。

https://www.sg-mark.org/reparation

点検について

・ご使用の前に、バックルなどの部品が破損したり、ベルトや生地などに破れ、ほつれ、傷が無いことを確認してください。
異常がある状態で使用すると、事故につながるおそれがあります。

お手入れについて

〈軽度の汚れの場合〉

・湿らせた布でたたいて汚れを落としてください。

〈洗濯する場合〉

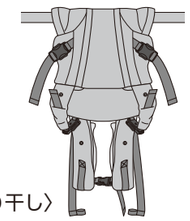
●本体、ハイポジションシート、おやすみカーテン、よだれパッド

※洗濯ネット使用、ねじり又は絞り禁止

・本体のバックル類は全てとめ、ベルトをまとめているゴムは、全てはずしてください。
・内ポケットの面ファスナーはとめてください。
・ハイポジションシート、おやすみカーテンは本体に取り付けたままでも洗濯できます。

洗濯のしかた　・バックルを内側に包むように折りたたみ、洗濯ネットに入れ、40℃以下の水温で洗濯機で洗えます。
※お使いの洗濯機のメーカーや設定によっても異なりますが、しっかり洗うコースなど強い洗濯のコースを避けて、標準やデリケートなどのコースを選んでください。

乾燥のしかた　・日陰で右図のように吊り干ししてください。



〈吊り干し〉

●首マモール

※ねじり又は絞り禁止

洗濯のしかた　・水温40℃以下で手洗いしてください。きついもみ洗いはしないでください。洗濯機では洗えません。

乾燥のしかた　・日陰で平干ししてください。

お手入れの注意事項(各部品共通)

・他の洗濯物とは別に洗濯してください。色落ちし移染したり、破損などのおそれがあります。
・蛍光剤や漂白剤入りの洗剤を使用しないでください。
・つけ置きしないでください。
・洗濯後は放置せず十分乾燥させてください。カビなどが発生するおそれがあります。
・脱水機の使用は短時間(2～3分)にしてください。バックルなどの破損や、変形につながるおそれがあります。
・乾燥には乾燥機を使用しないでください。
・アイロンは使用しないでください。
・ファスナーの付いた部品を本体からはずして洗濯機で洗う場合は、個別に洗濯ネットに入れて洗濯してください。

・雨や汗などでぬれた場合も放置せず、十分乾燥させてください。カビなどが発生するおそれがあります。
・洗濯による色落ちなどは、補償の対象外となります。

保証とアフターサービスについて

・保証期間中(購入日より1年間です。)に部品の欠品、不良加工など弊社の責任によるもの、取扱説明書や注意書きに従った正常な使用状態で故障した場合には、保証規定にもとづき無償にて対応を致します。
ただし、部品の色・柄などについては、ご希望に添えない場合があります。また、製造中止後の製品については、対応出来ないこともあります。

アフターサービスについての連絡先

ニューウェルブランズ・ジャパン合同会社
〈電話連絡先〉
ベビー事業部 お客様サポートセンター　TEL 0120−415−814
携帯電話からご利用の場合(通話料お客様負担)　TEL 0570-004-155
受付時間:AM10:00～PM5:00(土、日、祝日、弊社所定休日を除く)

Q&A

Q **タテ対面抱っこのとき、子どもの肩が外に出てしまうのですが、大丈夫でしょうか？**

A お子さまの肩はできるだけ外に出ない方が、より安全です。どうしても出てしまう場合は、バックルがはずれていないか、ベルトにゆるみがないかを必ず確認した上でご使用ください。腰すわり前のお子さまの場合は上半身が不安定ですので、手で支えるようにしてあげてください。

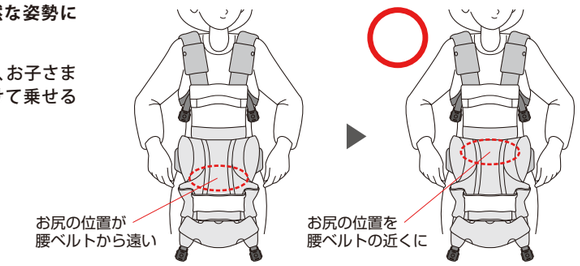
Q **抱っこひもの生地と子どもの肌が触れる部分が赤くなる時があるのですが。**

A お子さまのお尻が腰ベルトより下がりすぎていたり、着衣や紙おむつなどが原因になっている場合があります。まずは装着状態をご確認ください。それでもお子さまの肌に抱っこひもの跡がついたり、肌がこすれて赤くなる場合は、肌の露出部をおおう服を着せるか、露出部にタオルなどを当てて、抱っこひもが直接触れないようにしてください。

Q **各ベルトを調節しましたが、子どもが不自然な姿勢になって、うまく抱っこできません。**

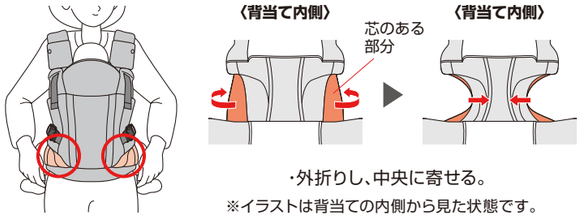
A お子さまを抱き上げて背当ての上に乗せる時、お子さまのお尻の位置をできるだけ腰ベルトに近づけて乗せるようにしてください。

●例えばこんな時に
・お子さまの位置が下に下がる。
・お子さまが反り返ってしまう。
・お子さまが窮屈そうな姿勢になる。



Q **あしらくサポートが上手にせまく出来ません。**

A P９の調節方法でもうまくいかない場合は、あしらくサポートを外折りにして中央側に寄せてご使用ください。



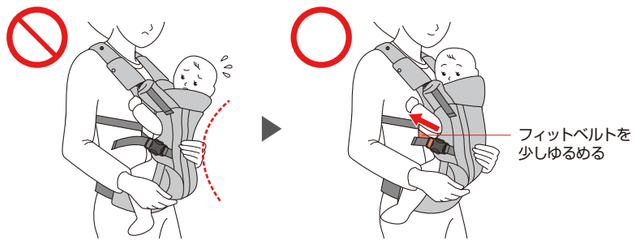
・外折りし、中央に寄せる。
※イラストは背当ての内側から見た状態です。

Q **セーフティバックルの解除ボタンを押してもバックルがはずれません。**

A お子さまの身体を支えた状態で解除ボタンを押してバックルをはずしてください。解除ボタンはボタンの中央部分を押してください。

Q **対面抱っこやおんぶのとき、子どもが反り返ってしまい、うまく抱っこできません。**

A フィットベルトを少しゆるめてお子さまと使用者との間を広げてください。



Q **他の抱っこひもに比べて、赤ちゃんの位置が低い気がします。おでこにキスができません。**

A お子さまの月齢が小さい頃は体重もそれほど重くなく、腰への負担も軽いので、「腰骨の少し上」よりも高い位置に腰ベルトを装着しても問題ありません。ラクリスは、お子さまの重さによる腰の反りを、中芯が入った腰パッドでしっかり支えるため、「腰骨の少し上」を腰ベルトの基本位置としています。お子さまの重さで腰の負担が大きくなってきましたら、基本位置での装着をおすすめします。腰ベルトの位置については、P7の「各ベルトの調節について」もご参照ください。